



尻別川の未来を考える オビラメの会

OBIRAME RESTORATION GROUP
NEWSLETTER May 2014

43

第22回環境自治体会議ニセコ会議連携号

おかえり、尻別イトウたち

イトウたちが今季も生まれ故郷に遡上してきました。倶知安町内の尻別川支流で4月27日午前、パトロール中だったオビラメの会の山根敏夫さんが遡上親魚1個体を発見。以降、巨大なイトウたちが次々に遡上してきて、さかんに繁殖行動を繰りひろげる様子が観

察されました。

オビラメの会は4月29日、繁殖地のそばに「オビラメハウス」を設置し、周辺の堤防道路に安全な観察ルートを明示するためのガイドロープを張りました。地元・倶知安町役場を通じての河川管理者の北海道後志総合振興局小樽建

設管理部の許可に基づく措置です。

同じ支流では2010年におよそ20年ぶりに野生イトウの自然繁殖が再発見され、翌年からオビラメの会が24時間体勢の「見まもり隊」活動を実施しています。



協働で目指せ！ 尻別イトウ復活の日

環境自治体会議
ニセコ会議によせて

オビラメの会の誕生

尻別川でのイトウ激減に危機感を募らせた流域と札幌市などの釣りファンが活動グループの結成を呼びかけ、10人足らずで発足しました。草島清作会長、吉岡俊彦事務局長、川村洋司さん（北海道立水産孵化場真狩支場長＝当時）らはオリジナルメンバー。現在の会員数は全国に約100人。年会費2000円。

イトウの飼育

安易に他河川からのイトウ導入に頼らず、あくまで尻別川オリジナル遺伝子を守ろう、というのがオビラメの会の最重要ポリシーです。尻別川から繁殖環境が失われてしまったことが個体群激減の一番の原因だと判明したため、人工孵化放流を試みる方針を立て、尻別川で捕獲したイトウ親魚を飼育し、人工受精を目指しました。北海道総合研究機構さけます・内水面水産試験場の支援を受けながら、倶知安町内とニセコ町内に専用施設を設けて尻別イトウの系代飼育を続けています。現在、年間数十万円に及ぶ管理費用（餌代を含む）は民間基金助成金や企業などからの寄付金に依拠しており、2030年の「オビラメ復活30年計画」終了まで安定的に継続できるかが課題です。

オビラメ勉強会

生態系の復元には多様なアプローチが欠かせません。中途半端な取り組みで失敗を繰り返す時間的余裕は尻別イトウには残されておらず、ベストな方策を決めるために、専門家を講師に招いての「オビラメ勉強会」を連続開催しています。すべて公開し、入場無料。オビラメの会のときどきの活動報告会の場合ともなっています。

オビラメ復活30年計画

1st STAGE 2001-2009

放流種苗の確保
再生産拠点の探索

2010年 人工種苗の放流

2nd STAGE 2010-2019

生産拠点の確立
釣りルールの確立

2020年 河川全域への展開

3rd STAGE 2020-2030

イトウのすめる
釣れる尻別川

2030年 オビラメの会解散

オビラメの会のあゆみ

1996年	オビラメの会結成
1998年	京極町内で親魚捕獲に初成功、倶知安町内で飼育を開始
2000年	オビラメニュースレター創刊 インターネットサイト開設 オビラメ勉強会スタート
2001年	オビラメ復活30年計画を策定 再導入のための候補地を探索 「尻別川の新しいルール」提案
2002年	イトウ保護フォーラム初開催 イトウ保護連絡協議会設立に参加
2003年	デカ捕獲、採卵に初成功 稚魚50匹孵化
2004年	デカから再び採卵成功 オビラメモニタリングチーム結成 選定した放流地点の事前モニタリング実施 倶登山川水系にイトウ稚魚初放流
2005年	倶知安東小、ニセコ近藤小、宮田小に稚魚飼育を委託 デカ死去 2度目の放流を実施 尻別川の魚を守る呼びかけ事業（北海道後志支庁）への協力 ニセコ町内に幼魚飼育水槽「ヌブリの森水」を新設 後志支庁長、倶知安町長に倶登山川落差工改修要望
2006年	ニセコでイトウ復活大会議開催 尻別川圏域河川整備計画検討委員会への参加 IUCNがイトウをCrに指定 尻別川整備計画検討委員会あて「尻別川イトウ個体群復元に向けてのご提案」
2007年	ノリカから初めて採卵成功 後志支庁・魚道整備環境配慮検討会への参加

再導入 Re-introduction

歴史的に分布が認められながら、その種がすでに絶滅、または絶滅に瀕している場所に、再び同種を定着させるよう試みること。オビラメの会は、国際自然保護連合「再導入のためのIUCN/SSCガイドライン」や日本魚類学会「生物多様性の保全をめざした魚類の放流ガイドライン」に則して、(A) 絶滅要因の特定、(B) 生息環境の復元（ダムの魚道付設など）、(C) 尻別川個体群の遺伝情報を引き継ぐイトウの畜養と人工増殖、(D) 再導入実験の実行と、(E) 効果判定のためのモニタリングおよびフィードバック、(F) 社会の合意形成などを進めてきました。

国交省北海道開発局「尻別川水系河川整備計画」

〈尻別川では、国内最大級の淡水魚であるイトウをはじめ、カワヤツメ、アユ、サケ、サクラマス等が生息し、遡上、産卵が確認されている。河道の掘削にあたっては、河床の掘削を極力避けるとともに、水際植生の保全・創出に努め、魚類にとっての生息環境が良好に保たれるよう配慮する。〉(p38、「魚ががすみやすい川づくり」)

尻別川統一条例

尻別川流域の7つの自治体（蘭越町、ニセコ町、倶知安町、京極町、真狩村、喜茂別町、留寿都村）の共通条例として、2006年に策定され、全町村が同じ条文の条例をもっています。追加されたのは以下の条項です。

第17条（生物多様性の保全） 町は、河川における生物の豊かな多様性を支えるための繁殖環境の保全、啓発活動の推進その他必要な施策に努めるものとする。この場合において、日本最大の淡水魚であるイトウをはじめとする希少な生物に対する保護について特に配慮するものとする。

イトウ保全意見交換会

事務局は倶知安町企画振興課。参加機関はほかに北海道後志総合振興局小樽建設管理部真狩出張所治水係、同産業振興部農村振興課施設整備係、同水産課漁業管理係、同保健環境部環境生活課自然環境係、尻別川連絡協議会事務局（蘭越町総務課）、後志地域生物多様性協議会事務局（黒松内町環境政策課）、倶知安教育委員会社会教育課と、「オビラメの会」。

後志地域地域連携保全活動計画

生物多様性地域連携促進法（2011年施行）に基づく法定計画。後志地域生物多様性協議会（後志地方の15町村とオビラメの会など2つの地域民間団体が参加）が、「連携した複数の町村」としては全国で初めて策定しました。

2007 年	3 度目の稚魚放流
2008 年	倶登山川落差工改修開始（全 5 基、後志支庁農村振興課）
	ニセコ町立近藤小学校で稚魚飼育
	4 度目の稚魚放流
	尻別川水系河川整備計画でイトウ保護への配慮明記
2009 年	倶登山川 1 ～ 3、5 号落差工魚道付設（後志支庁農村振興課）
2010 年	倶知安町内の尻別川支流でイトウ自然繁殖を確認。流域で 20 年ぶりの再発見
	倶登山川 4 号落差工に魚道完成
2011 年	イトウ繁殖遡上期のパトロールを実施。3 週間に 120 人のボランティアが参加し、完全保護に成功
	尻別川統一条例にイトウ保護条項が追加される
	倶知安風土館で町民連続講座「オビラメ学」
2012 年	倶登山川で再導入イトウの再遡上を初確認
	尻別イトウの飼育下での系統保存に初成功
	自治体、河川管理者らと「イトウ保全意見交換会」スタート
	倶知安町と初めて協働して「見まもり隊活動」
	「第 30 回前田一步園賞」受賞
2013 年	北海道環境財団「北海道 e- 水プロジェクト」事業採択
	イトウ飼育池改修
	倶登山川で落差工魚道「手づくり改修」
	倶知安町立倶知安小学校で「イトウ出前授業」
	ポケットブック「ボクライトウのレスキュー隊」発行
	パネル展「幻の巨大淡水魚イトウ／北海道・尻別川からのメッセージ」をニセコ町と東京新宿で開催
	後志地域地域連携保全活動計画に「イトウものぼる川づくり」採択
2014 年	再導入イトウの繁殖回帰を 3 年連続で確認
	環境自治体会議ニセコ会議で分科会開催
	5 度目の稚魚放流

OBIRAME TOPICS

Photos / Shingo Ogushi



イトウ再導入実験河川で
魚道を「手づくり改修」



春のイトウ遡上期を間近に控えた3月21日、「オビラメの会」は尻別川倶登山川水系のイトウ再導入実験河川で、農業用落差工に設けられた魚道の改修作業をしました。この川では2004年から再導入実験をスタート。当会の要望を受けた北海道後志総合振興局農村振興課が途中すべての落差工に魚道を新設した結果、2012年の「再導入イトウ初回帰」の快挙に結びつきました。会員らによる「手づくり改修」は昨年夏、冬に続いて3度目。河川管理者の倶知安町役場の事前審査と許可を受けたうえで、有志5人が作業にあたり、アタッチメント式の大きな丸太材を川底に固定しました。苦労の甲斐あり、5月には、3年連続でこの魚道を越えてイトウ親魚が繁殖遡上を果たしたことが確認されました。

「オビラメの会」は新入会を歓迎します

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」は、会費と寄付金などで運営される市民団体です。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。年会費は2000円です。郵便局の振り込み用紙に住所、氏名、電話番号を明記のうえ、入会希望と書き添えて、右のゆうちょ銀行口座にお振り込み下さい（手数料はご負担願います）。会員期間はお振り込みいただいた日から年度末（5月）までです。おおむねひと月以内にニュースレターをお届けします。

- 年会費 2000 円
- ゆうちょ銀行
02720-9-11016
- 加入者名「オビラメの会」

会員のみなさまへ

2013年度の年会費納納時期を迎えています。手続きはお早めに。

WANTED



標識オビラメ見つけたら

☎ 0136-44-2472

オビラメ事務局 マデ

オビラメの会ニュースレター 第43号(2014年5月発行)

OBIRAME Newsletter No.43 May 2014

- 発行 ■ 尻別川の未来を考えるオビラメの会
- 編集 ■ 平田剛士
- 印刷 ■ (株)須田製版(北海道滝川市栄町3-5-16)
- 発送 ■ 吉岡俊彦
- 口座 ■ ゆうちょ銀行 02720-9-11016 オビラメの会
- 事務局 ■ 北海道虻田郡ニセコ町富士見65 吉岡俊彦方
〒048-1501 TEL/FAX 0136-44-2472
<http://obirame.fan.coocan.jp/>
©2001-2014 Obirame Restoration Group

水と空気、みどりの大自然

ニセコが好きだ

楽しんだあとは川を語ろう

まぐろ屋十割

ニセコ町富士見 65 TEL/FAX 0136-44-2472

Email / itou110@sa2.gyao.ne.jp